

中学校社会科（歴史的分野）学習指導案

単元名 東アジアの中の日本	内容のまとめり B 近世までの日本 （１）古代までの日本 （イ）日本列島における国家形成
--------------------------------	---

1 単元目標

- ・ クニの発生にいたる過程を各種の資料を取集し、適切に読み取る技能を身に付ける。
- ・ 縄文時代、弥生時代、大和朝廷（大和政権）の特色を多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・ 縄文時代や弥生時代の人々のくらし、クニが出現した経緯、大和朝廷（大和政権）と大陸との関係について関心を高め、主体的に追究しようとする態度を養う。

2 単元を通して身につけさせたい資質・能力

博物館を何度か見学させて頂いた時に、自分自身が大きな感動を得たのが、体験できる展示コーナーであった。その中でも、特に銅鐸のレプリカを実際に持った時の重量感はインパクトが強く、是非生徒達にも体験させたいと思った。このようにレプリカや実物に触れ、そのものの質感や重さなどを肌で感じ、その時代のことを想像することができる。本物を見て触ることで当時の人々の生活をイメージさせ、理解させたい。

3 実践計画の概要

（１）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和朝廷（大和政権）による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解している。	・ 古代文明や宗教が起こった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	・ 古代までの日本について、よりよい社会の実現を視野にそこに見られる課題を主体的に追究しようとしている。
・ 東アジアの文明の影響を受けながら形成された古代国家の様子や当時の人々の生活の様子を資料から読み取る技能を身に付ける。	・ 東アジアの文明の影響を受けながら形成された古代国家の特色と、そこに住む人々の生活を多面的・多角的に考察し、表現している。	・ 農耕によって人々の生活が大きく変わったことを理解し、その変化からより良い社会の実現を視野にそこに見られる課題を主体的に追究しようとしている。

(2) 指導と評価の計画 [6時間扱い]

主な学習活動と内容 時間	主な資料 (◆) と教師の支援 (◇) など
1 日本列島ができたころの人々 人類の誕生から人類の進化の要因を考える。 人類が獲得した技術や道具を理解する。 日本人の祖先	◆写真資料で、獲得したものを提示 ◆日本人の祖先の移動ルート
2 豊かな自然と縄文時代 縄文時代の生活をイメージする。 遺跡から出土したものを理解する。	◇縄文カレンダーを使って縄文時代の生活を考えさせる。 ◆縄文カレンダー (資料集参照)
3 文明のおこりと中国の古代文明 エジプト、メソポタミア、インダスの文明を知る。 中国文明が日本に与えた影響を考える。	◇甲骨文字に焦点を当させる。(現代の漢字に通づる) ◆いくつかの甲骨文字を提示
4 稲作・弥生文化と邪馬台国 本時 矢じりの大きさについて考える。 様々な写真資料から考察する。 クニ同士の争いか続き、強力なクニ「邪馬台国」が生まれたことを確認する。	◆弥生時代前期と後期の矢じり (資料1) ◇矢じりがなぜ大きくなっていったのか自由に考えさせ、考えたことを挙げさせる。 ◆環濠集落のようすを描いたジオラマ (資料2) ◇写真資料②を見て、集落の中にどんな特徴が見られるか挙げさせる。 ◇銅鐸、銅剣、銅矛、銅鏡 (資料3) などの弥生時代の遺跡のレプリカに触れる。 ◇邪馬台国の成り立ちを理解させる。
5 古墳の広まりと大和朝廷 大規模な前方後円墳と大和地方の大きな政治勢力を理解する。 大和朝廷の支配制度について考える。	◇大きな政治勢力 (大和朝廷) が大規模な前方後円墳を作っていることから、前方後円墳の所在地が大和朝廷の勢力範囲であることを理解させる。 ◆前方後円墳の分布図を提示
6 大和朝廷と東アジア 渡来人のやってきた理由を考察する。 中国・朝鮮の情勢を理解する。	◇中国と朝鮮情勢から日本にどんな影響があったか考えさせる。 ①朝鮮に影響力を持つ朝廷 ②戦争が嫌で日本へ逃げる渡来人

4 本時目標

- ・ 実際当時使っていた銅鐸などに触れ、当時の人々の生活をイメージし、理解する。

5 本時展開

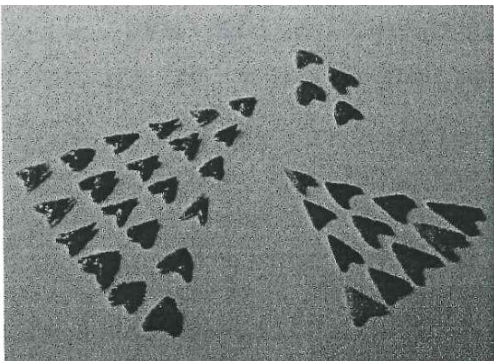
主な学習活動と内容	主な資料（◆）と教師の支援（◇）など
・弥生時代以降、なぜ矢じりが大きくなっていったのかを考える。	◆弥生時代前期と後期の矢じりの資料1を示す。 ◇矢じりがなぜ大きくなっていったのか、また、どのように使われたか、自由に考えさせ、考えたことを挙げさせる。
【予想される生徒の反応】 S：小さい矢じりより、大きい矢じりの方が威力が強いそう。戦いに勝つために工夫したのでしょうか。	【発問例】 T：なぜ矢じりは大きくなったのだろう。大きい矢じりと小さい矢じりどんな違いがありますか。
・写真資料（甕棺の中の頭部のない人骨）を見て、戦争があったことを理解する。 ・模型資料（環濠集落）のようすを見て、戦争があったことを理解する。 ・銅鐸、銅剣、銅矛、銅鏡などの弥生時代の遺跡のレプリカに触れてその時代の技術や人々の生活をイメージする。	◇資料（甕棺の中の頭部のない人骨や大きくなった矢じり。資料集参照。）を提示し、戦争があったことを理解させる。 ◆環濠集落のようすを描いたジオラマ（資料2） ◇写真資料②を見て、集落の中にどんな特徴が見られるか挙げさせる。集落間・地域間の戦争が起こっていたことが集落のようすを変えたということに気づかせる。 ◇銅鐸、銅剣、銅鏡（資料3）などの弥生時代の遺跡のレプリカに触れて重さや質感を感じ、人々の生活をイメージさせる。 ◆銅鐸、銅剣、銅矛、銅鏡のレプリカ（歴博の資料など）
・クニ同士の争いか続き、強力なクニ「邪馬台国」が生まれたことを確認する。	◇邪馬台国の成り立ちを理解させる。

6 博物館との連携（参考文献など）

銅鐸、銅剣、銅矛、銅鏡のレプリカなど以前には市歴史博物館・体験学習室に展示されていましたが、現在は部屋を他の目的に使用しているため、必要があれば博物館にご相談ください。

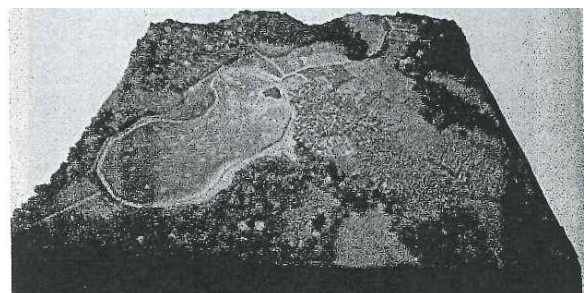
資料1

横浜市歴史博物館発行「おなかがすいたはらぺこだ」P5



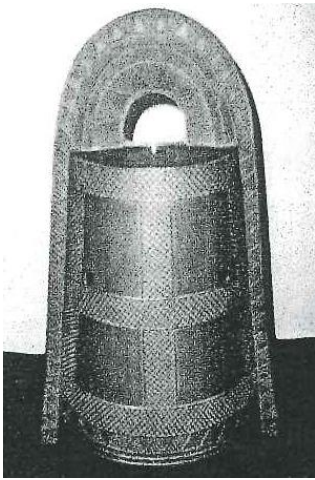
資料2

環濠集落の様子を描いたジオラマ
常設一原始Ⅱ

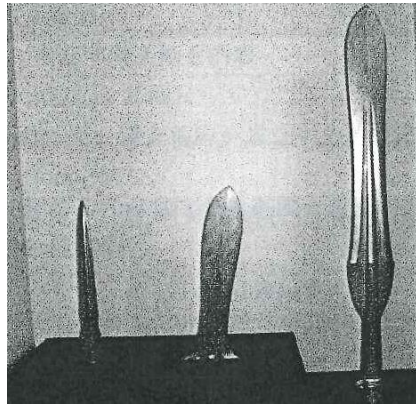


資料3

銅鐸のレプリカ



銅剣のレプリカ



銅鏡のレプリカ



銅鐸に描かれた絵

